福井県立美術館 2013

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.138

contents

版画の競演 [2～3]
移動美術館　小浜展２ [3]
〈イベント報告〉
「土屋公雄展　夢のあとに／交差する時間」 [4～5]
「平成２４年度　福井県立美術館実技講座」 [5]
福井県立美術館館蔵品紹介
小野忠弘『アンチプロトン』 [6]
〈ふれあいミュージアム〉
「敦賀市立松陵中学校での美術鑑賞会」 [6]
福井県立美術館ボランティアの会 [7]
福井県立美術館友の会 [7～8]
お知らせ・貸館情報 [8]

表 紙：東洲斎写楽「松本米三郎のしのぶ」（部分）奈良県立美術館蔵（版画の競演展より）

ふるさと知事ネットワークによる美術館交流事業

版画の競演

―三重・奈良・福井 三県立美術館コレクションによる―

福井県は、全国１３県で構成する「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」の枠内で、県立美術館同士の相互交流事業を提案しました。

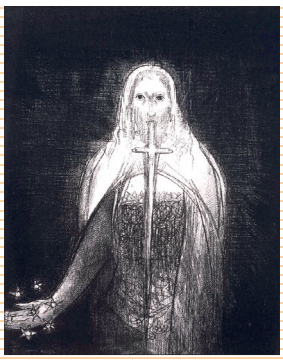
今回は、その第一弾として、福井県立美術館の豊富な版画コレクションに、西洋版画の充実した三重県立美術館、優れた浮世絵版画を有する奈良県立美術館の所蔵作品を加えた「版画の競演」を開催します。

ピカソ、ミロ、シャガール、ルオー、カンディンスキー、ルドンを始め、写楽、歌麿、北斎、広重など、洋の東西の版画の名手たちの、華麗な競演を是非ご覧ください。

三重県立美術館

Mie Prefectural Art Museum

〒514-0007　三重県津市大谷町11番地
TEL:059-227-2100
http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/



オディロン・ルドン「ヨハネ黙示録(1)《―その右手に七つの星を持ち、口からは鋭いもろ刃のつるぎがつき出ていた。》」　1899年

ワシリー・カンディンスキー「小さな世界 V」1922年

ワシリー・カンディンスキー「小さな世界 III」1922年

1982年開館。日本近代美術を中心に三重県ゆかりの近世絵画、西洋近現代美術を検証。コレクション約5000点を常設展示室において年4回の展示替えを行い紹介。2003年リニューアル・オープンし、柳原義達記念館を新設、レストラン、ミュージアム・ショップも拡充。

【出品作品】ワシリー・カンディンスキー「小さな世界」シリーズ、オディロン・ルドン「ヨハネ黙示録」シリーズ、ジョルジュ・ルオー「受難」シリーズ、マルク・シャガール「版画集サーカス」シリーズ、M.C. エッシャー「秩序とカオス」、ジョアン・ミロ「岸壁の軌跡」シリーズ　27点

奈良県立美術館

Nara Prefectural Museum of Art

〒630-8213　奈良市登大路町10-6
TEL:0742-23-3968
http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-11842.htm

東洲斎写楽「谷村虎蔵の鷲塚八平次」寛政６年（1794）

歌川広重「名所江戸百景　亀戸梅屋舗」安政４年（1857）

歌川広重「名所江戸百景　大はしあたけの夕立」　安政４年（1857）

風俗史研究家・日本画家である吉川観方氏が蒐集した近世の日本画・浮世絵、染織品などの寄贈を機に、1973年に開館。近世から現代に至る優品や、奈良にゆかりの深い作品なども蒐集し、約4200件を収蔵。展覧会は館蔵品展と特別展を年５～６回開催。

【出品作品】鈴木春信「輿入」、喜多川歌麿「隅田川舟遊」、東洲斎写楽「松本米三郎のしのぶ」「谷村虎蔵の鷲塚八平次」、二代歌川豊国「名勝八景・大山夜雨　従前不動頂上之図」、歌川広重「名所江戸百景」シリーズ、歌川国芳「人かたまって人になる」、歌川芳藤「唐の子がよりかたまって人になる」　20点

会期◎2013年

3/1金～3/24日

会場◉福井県立美術館／開館時間◉午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）休館日◉3月11日(月)／観覧料◉一般・大学生100円、高校生以下、70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料　※30名以上の団体は2割引／主催◉福井県立美術館／協力◉三重県立美術館、奈良県立美術館

■学芸員によるギャラリートーク

※要本展チケット

3月10日(日)、3月20日(水･祝)午後2時～展示室にて

[自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク]

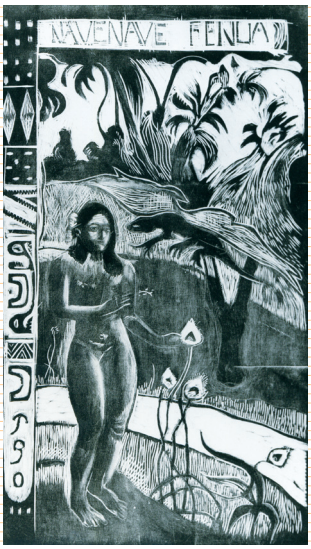
地勢の異なる地方の１３県（青森、山形、石川、福井、山梨、長野、三重、奈良、鳥取、島根、高知、熊本、宮崎）が、新しいふるさとの創造に向けて、「ローカル・アンド・ローカル」の発想の下、人や地域の新しいネットワークをつくり、地方自治の新しいモデルをつくるための活動を行っています。

Fukui Prefectural Museum of Fine Arts

福井県立美術館

葛飾北斎「諸国名橋奇覧　ゑちぜんふくゐの橋」
天保４～５年（1833～34）

フランシスコ・ゴヤ「版画集《諺（妄）》より　死んだロバより重く」
1864 年



ポール・ゴーギャン「かぐわしき大地」
1894 年

移動美術館　小浜展２

四季の絵画

当館では平成3年度より、当館のコレクションを地域の方々にも身近なものとして鑑賞していただくことができるよう、市町の協力を得て「移動美術館」を開催しています。
今回の移動展では、「四季の絵画」と題し、季節の風景や人々の暮らしなどを描いた絵画を展示します。

木村武山「林和靖」右

木村武山「林和靖」左

会　　期：平成25年 **3/9**(土)～ **3/20**(水･祝)　※会期中無休
会　　場：福井県立若狭歴史民俗資料館
小浜市遠敷２丁目104　TEL：0770－56－0525
開場時間：午前９時～午後５時（入場は午後４時30分まで）
主　　催：福井県立美術館
共　　催：小浜市教育委員会
後　　援：高浜町教育委員会・おおい町教育委員会・若狭町教育委員会
観 覧 料：一般100円（団体30名以上は２割引）
高校生以下、70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料

【主な作品】
木村武山「林和靖」20世紀（大正時代）、竹内栖鳳「満林秋色」1937年（昭和12）、三上誠「雪の日の丘」1947年（昭和22）

《イベント報告》

「土屋公雄展　夢のあとに／交差する時間」

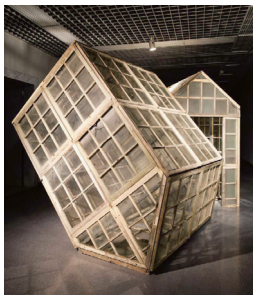
2012年9月16日(日)～10月21日(日)

主催／福井県立美術館　共催／福井新聞社

福井県出身の美術家・土屋公雄氏の個展が開催されました。県立美術館の全展示室を使い、代表作と最新作によって氏の全貌を紹介する過去最大規模の発表となりました。美術館ならではの精緻な展示により、アーティスト土屋公雄氏の創造の本質が開示されました。

土屋氏は、展覧会の準備中に東日本大震災に遭遇しました。家屋の廃材、灰など現代都市の解体物を素材に、廃墟のイメージを表現に重ねてきた作家にとって、3.11以降の光景は、その表現が対峙すべき現実となりました。現地に何度も赴きながら、自身の表現を問うことで、本展の「夢のあとに／交差する時間」というコンセプトが構想されました。今回の発表には、大きな問いとメッセージが込められることとなりました。

新作インスタレーション「雨の記憶／少年時代」
撮影：宇田川俊之



新作インスタレーション「夢のあとに」　撮影：宇田川俊之

◎講演会 トークショー

［日時］9月16日（日）午後2時～　［場所］講堂にて
［講師］塩田純一 氏（美術評論家、新潟市美術館館長）/土屋公雄 氏（アーティスト）
［日時］10月8日（月・祝）午後2時～　［場所］講堂にて
［講師］建畠晢 氏（美術評論家、京都市立芸術大学学長）/土岡秀一 氏（美術評論家、金津創作の森館長）/土屋公雄 氏（アーティスト）

＊　＊　＊　＊

塩田純一氏により、初期から現在までの土屋作品の精緻な解説が行われ、その変遷の意味が分析されました。建畠晢氏は、土屋氏の創作開始の土壌となった、福井の前衛美術運動である「北荘画会」「北美文化協会」についてのレクチャーを行い、また今回の土屋作品についての考察を行いました。土岡秀一氏は、土屋氏あるいは土屋作品と福井との密接な関わりについて細やかな講義を行いました。土屋氏にも適宜トークに参加いただき、現代アート展にふさわしいライブ感のある講演会となりました。

講演会 トークショー

◎チェロコンサート

［日時］10月7日（日）午後3時～午後4時30分　［場所］展示室にて
［講師］花崎薫 氏（チェリスト、愛知県立芸術大学准教授）

＊　＊　＊　＊

展示室を巡りながら、バッハ、フォーレなど、作品に合わせて選曲された楽曲が演奏されました。現代アートとチェロの競演が生み出すスリリングで贅沢な時間は、観客を魅了し非日常の時空へと誘うようでした。

チェロコンサート

◎土屋公雄ギャラリートーク

［日時］9月17日（月・祝）午後2時～
10月8日（月・祝）午後1時～　［場所］展示室にて

＊　＊　＊　＊

会場で実際の作品を前にして、創作の動機となった土屋氏個人の記憶や思い、表現の思想的な背景などについて、時に冷静に時には熱く、聴衆に語られました。一部の隙もなく構築された作品群の内に、ともに同じ時代を生きるアーティストの生々しい身体を感じる、貴重な時間となりました。

土屋公雄ギャラリートーク

◎所蔵品によるテーマ展「土屋公雄コラボレーション展　― 月・MOON ―」

＊　＊　＊　＊

公立美術館での展示という機会を生かし、美術館コレクションと土屋作品とのコラボレーションを、常設展として開催しました。作家の代表作「月」が、同じく月をテーマにした古今東西の優品と出合う、土屋氏にとっても初の挑戦となりました。

「土屋公雄コラボレーション展
― 月・MOON ―」　撮影：宇田川俊之

◎美術作家育成塾　（主催：県文化振興課）
［日時］9月29日（土）12：00～16：00／9月30日（日）9：00～16：00

＊　＊　＊　＊

プロの美術作家になるために必要なことや制作技法などについて、国内外の第一線で活躍するアーティストから直接指導を受けることができる講座において、土屋氏が講師を務めました。美術大学や作家を目指す高校生約50人が参加し大きな刺激を受けていました。

美術作家育成塾

「平成24年度　福井県立美術館実技講座」

平成24年度の福井県立美術館実技講座は、日本画、洋画、素描・水彩画ともに多くの応募があり、特に素描・水彩画の基礎コースには定員（20名）の3倍近い58名もの応募者が殺到する等大変な人気でした。また今年度は受講生からの要望を取り入れ「描写力向上」に力を入れました。その結果「対象の捉え方がわかった」「作品の質を上げることができた」等の声を聞くことができ、2月17日から開催されている受講生作品展にも多くの生徒が自信作を出品しています。今年度のアンケート結果等をみると「講座の内容だけでなく、講師の魅力も大きい」等の回答も多く、そういった部分にも楽しみを感じて受講していただけたようでした。

日本画講座講師　塩出周子

洋画講座講師　坂井敏之

洋画／素描・水彩画講座講師　小原勉

洋画／素描・水彩画講座講師　荒木道之

■ 素描・水彩画講座講師　荒木道之

「人物」を題材に「洋画講座」「素描・水彩画講座」を担当した。絵は絵空事（とは野見山暁治先生のことば）ということばがあるが、感動や発見を通し新しいものを見つけて創って行かないと表現につながらない。デッサンに力点を置き、絵の真骨頂を究める姿勢で続けることが大事だ。

講座での新たな出会い、つながり、触発などを糧として前進することを心がけ努力している。

■ 素描・水彩画講座講師　小原勉

人間には創造力のはたらきが潜在している。研修に出席している皆さんと共に、新鮮なみずからの感性と視点でものを見、自身の生活と経験の中での記憶を再構成して作品を描く。その創造力こそ、自分の空想や夢を実現し、今まで経験できなかった世界を得る原動になったと思います。手なれた作品でなくても、新しい発見や創造力のある感動を感じさせる作品を描くことにトライし、前にすすもう。

私は講座の中で、「ザオ・ウーキー」展（1982年、福井県立美術館）図録の序文で河北倫明氏が書いた「東洋には『形なきところに形を見、音なきところに音を聞く』といった芸術神経がある」ということばや、安曇野ジヤンセン美術館で見たジヤンセンの「光の美しさに目を奪われないで、本当の姿とは何かを追求した」作品のことを伝え、そういった作家たちの語ったことばや姿勢が心に残ればと思念している。

■ 洋画講座講師　坂井敏之

例年通り20～25人の基礎講座生が、美術館を巣立っていった。4月から6月まで3ヶ月10週で数少ない回数だったが、絵を描く楽しみをイロハから教わり、美術館主催の受講生による作品展に、自分の制作した自慢の作品が展示された。

「ほんとうに受講して良かった。これからも続けて、絵に打ち込みたい」と、受講生たちは生き生きした表情で語っていた。

■ 日本画講座講師　塩出周子

日本画は和紙に岩絵具を使って描く。膠という接着剤を使う。胡粉だの松葉緑青だの美しい絵具の魅力をどう生かせばよいのか。手順だけは知ってもらおう、と消極的な始まりであった。「生きているものを生き生きと」などわけのわからない表現をしつつデッサンにとりかかる。すると皆さん驚くほど折り合いを上手につけてその人の作品に仕上げていく。その人の肌合いで。私は反省したり感心したり勉強になります。

福井県立美術館館蔵品紹介

小野忠弘『アンチプロトン』

1960年　184×183㎝　ミクストメディア

1913年青森に生まれ42年に福井の住人となった小野忠弘は、2001年に没するまで約60年間にわたって超人的ともいえるヴァイタリティーを持った制作活動を繰り広げた。初期には自由美術家協会展に独創的な油彩画などを発表するが、アンフォルメル美術隆盛期に制作した造形彫刻が、来日した同運動の提唱者ミッシェル・タピエ等に認められ、1959年のサンパウロ・ビエンナーレや翌年のヴェネツィア・ビエンナーレに選出された。同展に出品した廃棄物を利用した独創的な半立体作品とその造形意識は、当時の美術界に驚きをもって迎えられ、米ライフ誌上でマルセル・デュシャン等とともに「世界の7人」の1人として紹介されるなど国際的に高い評価を得た。

本作≪アンチプロトン≫はこのように小野がもっとも注視された時期の作品であり、小野はこの頃より「ジャンク・アーティスト」という肩書きで呼ばれるようになる。しかしながら本作はみるものに、それまでに経験したことがないかのような独特の美意識と圧倒的な孤絶感を感じさせる。この単にジャンク・アートという範疇で括ることができない本作は、小野が生前筆者に語った言葉によれば、「廃墟感覚」という美意識を具現化したものである。それは風景と化した廃墟のことではなく、通常の美意識の外に捨て去られた“美”の残骸の堆積体としての廃墟を指したものであり、「踏みつけられ顧みられることのないもののなかに“美”の本質がある」とした小野の持つ特異性とも通ずる感覚である。本作を凝視するとその美意識がいかに小野独自の強固なものであるかが伝わってくる。

（学芸員　西村直樹）

《ふれあいミュージアム》「敦賀市立松陵中学校での美術鑑賞会」

（開催日：平成24年10月30日、テーマ：小野忠弘、担当学芸員：西村直樹、対象者：2年生）

子どもたちに本物の美術に触れてもらう機会を提供するため、平成18年度から、県立美術館の収蔵品を学校等へ出張展示・解説する「ふれあいミュージアム」事業（所管：県文化振興課）が実施されています（今年度は22か所の学校等で開催）。

10月30日には、「小野忠弘」をテーマに、敦賀市立松陵中学校の2年生約235人（8クラス）を対象に行われました。

以下に生徒たちの感想の一部を紹介します。

解説風景

◆ 大矢陽史

今日の授業を受けて、「自分の作品に生かせることがたくさんあるなあ」と思いました。また、3つの作品を県立美術館から持ってきてくださり、見させていただきました。いろいろな道具やものを使って作品にしていたので「すごいなあ」と思いました。

今日の授業で美術のおもしろさを知ることができ、興味が湧いてきました。芸術にふれあえたのでとてもうれしかったです。

◆ 棚橋諒

今日の鑑賞の授業で、美術にはいろいろな表現があることを知りました。また、有名な画家は独特な表現のしかた、考えで有名になり、世界から評価されることを知りました。自分が授業でつくっている作品にも、今日学んだことを生かしてより良くしていきたいです。本当にいい1時間でした。楽しかったです。

◆ 中島侑哉

自分が描いた絵のうち半分を友だちと交換してみると全く想像していたイメージと違うものになりました。このようにすればさらにいろんな絵になることが分かって、美術はおもしろいなと思いました。

福井県立美術館
ボランティアの会

平成24年度
中日ボランティア賞 表彰式

昨年12月1日にホテル金沢で「平成24年度中日ボランティア賞」表彰式が行われ、福井県立美術館ボランティアの会が表彰されました。

今年度の中日ボランティア賞は、石川・富山・福井の北陸3県から54件の推薦があり、継続性や各地域への貢献度等を基準とする厳格な審査の結果、30の団体と個人に贈られたものです。この日は各ボランティアの会の方々にも晴れやかな表情がみられ、当館ボランティアの会の西村和修会長も「今後も参加を呼びかけていきたい、活動を充実させていきたい」等決意を新たにされていました。

この場を借りて当館からもお礼を申し上げたいと思います。

表彰状と記念品を贈呈される西村会長

記念撮影会での西村会長

美術館でのボランティア活動も今年で17年になりました。振り返ると初めの頃のわくわくする気持ちと緊張感がなつかしく思い出されます。芸術作品の評価は正直言って分かりませんが、私の心の中にはひとつの世界が拡がりつつあるように思います。そして美術館での活動の中で同じボランティア精神を持つ人々との交流は他では得られない大切なものになっています。（北川秀貴）

2010年にボランティア15周年記念事業として、夏の企画展「ヴィクトリアンジュエリー」展に協力したことが印象に残っています。女性の来館者のために穐葉アンティークジュウリー美術館よりティアラを借り、ドレスと共に写真撮影するコーナーを担当。好評で連日早朝より来館され（人数制限の為）、着用すると感動のあまり泣きだす方もおられました。

また来館者の中にいた父と男の子達が美しいジュエリーの数々に見入っていたことが特に印象的で、大きくなっても覚えていて欲しいと思いました。（安久寿恵子）

福井県立美術館
友の会

＜秋の見学会（平成２４年１１月８日）＞

美術館友の会では毎年春と秋の年二回、県外の美術館等の展覧会鑑賞を主目的とした旅行会を開催しています。今回の秋の見学会では、滋賀県立近代美術館と神戸市立博物館を訪ねました。鑑賞時間も足りないほど熱心に鑑賞されている参加者も多く、皆さん心ゆくまで楽しんでおられたようです。

＜参加者からの声＞

滋賀県立近代美術館前にて記念撮影

今回、初めて参加させていただきました。

滋賀県立近代美術館の石山寺縁起絵巻は、ストーリーの多様さと細部まで描かれたその時代の服装などが今なお色鮮やかで驚きました。常設展では、ボランティアガイドさんの説明があり、より深く鑑賞できました。

神戸市立博物館のマウリッツハイス美術館展の「真珠の耳飾りの少女」は、オランダのモナリザと称されるらしく、離れがたいほどの魅力がありました。

このような機会をくださった福井県立美術館および関係者の皆様に感謝します。

本当にありがとうございました。（匿名）

今回の友の会の鑑賞旅行もとても楽しみにしておりました。「石山寺縁起絵巻」は初めて見ました。全巻が完成したのは江戸時代のようですが、絵の内容は、それ以前の貴族の姿や暮らしぶりが具体的に描かれており、しかも、文章も私にも理解出来るように解説文もあり、とても興味深く見る事が出来ました。滋賀県立近代美術館も久しぶりで嬉しかったです。

さて、次は、お待ちかねの「真珠の耳飾りの少女」の待つ神戸市立博物館へ心がおどりました。十二年前に大阪市立美術館でこの少女に会った時は外で２時間待って見ました。別名「青いターバンの少女」とも言われているからでしょうか、私は新鮮な「青」とキラキラ輝く瞳が心に残っており気に入っております。一巡してもう一度ゆっくり観せてもらって満足感いっぱいで神戸をあとにしました。（前田益枝）

芸術の秋にふさわしく、朝出発のときは小雨模様だった空が滋賀県立近代美術館に着くころには快い青空になってきました。
「石山寺縁起絵巻」は図版や美術本などで何度か目にしてきましたが、本物をこれだけ大量にゆっくりと観賞したことはなく、2時間という余裕のある時間を設定していただいたにもかかわらず、私がぐずなせいからなんですが、ぎりぎりの集合時間になってしまいました。会場ではボランティアの方が大勢おいでになって、広い会館でまいごにならないよう工夫されているようでした。印象に残った場面は、馬借が米俵を運んでいる道中で、少年（青年）が米俵からひとつかみの米をとり出し口に入れているところです。きっとひもじくてしょうがなかったのでしょうね！あとで依頼主からしかられないのでしょうか？
朝いつもになく早かったせいか、三ノ宮に移動中バスの中ではぐっすり1時間以上も眠ってしまい、気がついたらランチ目前でした。「神戸市立博物館」は海が真近かであるせいか、風が思いの外強く会場入口付近のタペストリー風広告も風で小刻みにはためいていました。
神戸市立博物館は、この比較的小型の「真珠の耳飾りの少女」のために大部屋一室を用意しており、人気の高さと、館の用意の良さに感心しました。フェルメールは左側から光のあたる絵が得意なのでしょうかね。「ルーベンス」の自画像は注文をもらうためのパンフレットのようなものだとのことで、そんなに力いっぱいに描いたものではないのでしょうが、そのくせ彼のやや得意気な表情が見る人々を引きつけ、フェルメール同様大変な人だかりがしていました。かきなぐったようなベレー帽と合まって、じっと見つめ時間があっという間にたってしまいました。両美術館ともにゆっくり時間をとっていただき有り難うございました。（三島）

お知らせ　平成25年度 実技講座受講生の募集

福井県立美術館では「日本画」「洋画」「素描（デッサン）・水彩画」の基礎講座（4～6月・10回）、専門講座（9月～翌年3月・25回）の受講生を募集します。

詳細は当館に備えてある募集要項やホームページをご覧ください。

各講座／定員：20名

◎募集期間

■基礎講座
3月1日㈮～20日㈬まで

■専門講座
7月1日㈪～31日㈬まで

平成25年度 会員募集のお知らせ

詳しくは各事務局（電話番号はいずれも0776-25-0452）までお問い合わせください。

福井県立美術館　友の会

◎年会費　一般会員 2,000円　家族会員 4,000円
特別会員 10,000円

◎特　典
❶展覧会
・企画展無料入場券配付
（一般会員1枚、家族会員3枚、特別会員8枚）
・美術館主催・共催展2割引
・テーマ展無料
・企画展鑑賞会（定員20名）
❷友の会ニュース（随時）、美術館だより（年4回）送付
❸ミュージアムグッズ2割引（常設展のみ）
❹実技講座、美術館見学会（年2回）への参加［実費負担］

◎申込は3月1日以降

福井県立美術館　ボランティアの会

◎年 会 費　1,000円（通信費）

◎入会資格
❶美術及び美術館に関心をお持ちの方
❷高校生以上
❸月2回（各回半日程度）以上活動可能な方

◎活動内容
❶インフォメーションでの案内・情報提供
❷展覧会の会場監視
❸美術関係情報の収集・整理

◎3月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。
3月11日㈪、28日㈭～31日㈰

貸館情報 [3/1~3/24]

3/ 1～3/ 3	第5回聴雪社書展
3/ 1～3/ 3	福井大学書道部卒、修了展
3/ 1～3/ 3	書を友として　中垣郁芳個展
3/ 6～3/10	友の会
3/ 6～3/10	第6回スプリングアート展
3/ 8～3/10	アトリエ布あそび（第4回吉井久子パッチワーク教室　作品展）
3/14～3/17	絵画グループA作品展
3/15～3/17	第40回一書会展
3/15～3/17	第4回こっとんくらぶ布遊び展
3/19～3/24	すてんどぐらす　オリビエ
3/20～3/24	福井一陽展
3/22～3/24	第9回藤島高等学校書道部展

美術館だより第138号
本誌は再生紙を使用しています。
編 集／発 行：福井県立美術館　〒910-0017 福井市文京3丁目16-1　tel.0776-25-0452　印 刷：河和田屋印刷株式会社　発行日：平成25年2月23日　13.02.20220